

# 四 半 期 報 告 書

自 2023年7月1日 至 2023年9月30日

第 155 期 第 2 四半期

**KOMATSU**

株式会社 小 松 製 作 所

E01532

第155期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

---

# 四 半 期 報 告 書

---

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織（EDINET）を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものです。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

# 目 次

	頁
表 紙 .....	1
第一部 企業情報 .....	2
第1 企業の概況 .....	2
1 主要な経営指標等の推移 .....	2
2 事業の内容 .....	3
第2 事業の状況 .....	4
1 事業等のリスク .....	4
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 .....	4
3 経営上の重要な契約等 .....	6
第3 提出会社の状況 .....	7
1 株式等の状況 .....	7
(1) 株式の総数等 .....	7
(2) 新株予約権等の状況 .....	7
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等 .....	7
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移 .....	7
(5) 大株主の状況 .....	8
(6) 議決権の状況 .....	10
2 役員の状況 .....	10
第4 経理の状況 .....	11
1 四半期連結財務諸表 .....	12
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	12
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	14
(3) 四半期連結純資産計算書 .....	18
(4) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	19
2 その他 .....	50
第二部 提出会社の保証会社等の情報 .....	51

[四半期レビュー報告書]

[確認書]

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【四半期会計期間】	第155期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社小松製作所
【英訳名】	KOMATSU LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小川 啓之
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂二丁目3番6号
【電話番号】	03（5561）2604
【事務連絡者氏名】	管理部長 中尾 光男
【最寄りの連絡場所】	東京都港区赤坂二丁目3番6号
【電話番号】	03（5561）2604
【事務連絡者氏名】	管理部長 中尾 光男
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第154期 第2四半期 連結累計期間	第155期 第2四半期 連結累計期間	第154期
会計期間	自 2022年4月1日 至 2022年9月30日	自 2023年4月1日 至 2023年9月30日	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日
売上高(注)3 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	1,618,735 (854,927)	1,822,994 (923,443)	3,543,475
税引前四半期(当期)純利益(注)4 (百万円)	227,759	288,020	476,434
当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間) (百万円)	162,568 (82,114)	205,548 (100,121)	326,398
当社株主に帰属する 四半期(当期)包括利益 (百万円)	399,409	396,868	422,459
株主資本 (百万円)	2,577,150	2,865,252	2,539,641
純資産額 (百万円)	2,712,279	3,016,812	2,677,955
総資産額 (百万円)	5,002,545	5,404,085	4,875,847
1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (第2四半期連結会計期間) (円)	171.96 (86.85)	217.36 (105.87)	345.22
潜在株式調整後1株当たり 当社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (円)	171.94	217.34	345.18
株主資本比率 (%)	51.5	53.0	52.1
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	25,535	187,313	206,474
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△85,321	△81,406	△169,518
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	45,614	△79,609	△66,613
現金及び現金同等物 四半期末(期末)残高 (百万円)	320,824	317,287	289,975

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
2. 当社の連結財務諸表及び四半期連結財務諸表の金額については、百万円未満の端数を四捨五入して表示しています。
3. 売上高には、消費税等は含まれていません。
4. 当社の連結財務諸表及び四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準(以下、「米国会計基準」)に準拠して作成しているため、本表では「経常利益」に替え、連結損益計算書上の「税引前四半期(当期)純利益」を記載しています。

## 2 【事業の内容】

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年（2007年）内閣府令第64号）附則第4条の規定により、米国会計基準に準拠して作成しており、当該四半期連結財務諸表をもとに、関係会社については米国会計基準の定義に基づいて開示しています。「第2 事業の状況」においても同様です。

当第2 四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）の主な事業内容と事業の種類別セグメント情報における事業区分に重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動は、次のとおりです。

（建設機械・車両事業セグメント）

[主要な会社の異動]

合併による連結除外（2023年4月）：小松（山東）建機有限公司

※ 2023年4月1日、小松機械製造（山東）有限公司が吸収合併しました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の状況

当社グループ（当社及び連結子会社）は、2025年3月期をゴールとする3カ年の中期経営計画「DANTOTSU Value - Together, to *“The Next”* for sustainable growth」において、①イノベーションによる成長の加速、②稼ぐ力の最大化、③レジリエントな企業体質の構築を成長戦略の3本柱として掲げ、収益向上とESG課題解決の好循環による持続的成長を目指すサステナビリティ経営を引き続き重視し、需要変動に左右されにくい事業構造の構築に向け、活動を進めています。

本中期経営計画の2年目となる2024年3月期の第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）において、連結売上高は1兆8,230億円（前年同期比12.6%増加）となりました。建設機械・車両事業では、中南米、欧州、アジアを中心に一般建機の需要が減少したものの、北米においては堅調に推移しました。また、鉱山機械の需要も引き続き好調に推移しました。鉱山機械を中心とした機械の高稼働による部品・サービス売上げの増加や、各地域での販売価格の改善や円安の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。産業機械他事業では、自動車産業向けの大型プレスの販売が増加したため、売上高は前年同期を上回りました。

利益については、固定費や資材価格上昇の影響はあるものの、各地域での販売価格の改善や円安の影響により、営業利益は2,970億円（前年同期比40.3%増加）となりました。売上高営業利益率は前年同期を3.2ポイント上回る16.3%、税引前四半期純利益は2,880億円（前年同期比26.5%増加）、当社株主に帰属する四半期純利益は2,055億円（前年同期比26.4%増加）となりました。

本年9月には、コマツレポート（統合報告書）において、収益向上とESG課題解決の好循環による持続的な成長を着実に遂行するために策定したKPIの進捗状況などを開示しました。

事業の種類別セグメントの経営成績は、次のとおりです。

#### ① 建設機械・車両事業セグメント

売上高は1兆7,076億円（前年同期比13.4%増加）、セグメント利益は2,808億円（前年同期比49.7%増加）となりました。

中期経営計画の成長戦略「イノベーションによる成長の加速」においては、鉱山向け無人ダンプトラック運行システム（AHS）の導入を着実に進め、本年9月末時点の総稼働台数は累計673台となりました。建設・鉱山機械のカーボンニュートラル化については、電動化建機の市場導入元年として、リチウムイオンバッテリーを搭載した3トンクラスの電動ミニショベル「PC33E-6」を欧州市場へ導入開始し、電動マイクロショベル「PC05E-1」や20トンクラスの電動ショベル「PC200LCE/210LCE-11」の市場導入に向けて取り組みました。また、電動化建機以外の分野においてもカーボンニュートラル実現に向けて研究開発を進めており、水素活用の一環として、燃料に水素を最大50%混合した発電を可能とする水素混焼発電機の製品化に取り組み、9月に小山工場へ初号機を導入しました。自動化・自律化・遠隔操作化については、ガイドランス・セミオート機能搭載のコンテナ用フォークリフトの開発を進めました。

「稼ぐ力の最大化」では、都市土木作業に特化して仕様を最適化した油圧ショベルCEシリーズ「PC200-10M0」の導入地域拡大のため、ブラジル現地工場での量産開始に向けて取り組みました。

「レジリエントな企業体質の構築」では、クロスソースの重要な生産拠点として品質管理（TQM）活動による体制強化に取り組んできたバンコックコマツ㈱が「2023年度デミング賞」を受賞しました。

（金額単位：百万円）

	前第2四半期 連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	増 減	
			金 額	増減率 %
日本	140,591	153,075	12,484	8.9%
北米	380,871	459,444	78,573	20.6%
中南米	257,173	317,150	59,977	23.3%
米州	638,044	776,594	138,550	21.7%
欧州	134,748	158,344	23,596	17.5%
CIS	70,718	36,971	△33,747	△47.7%
欧州・CIS	205,466	195,315	△10,151	△4.9%
中国	39,216	32,273	△6,943	△17.7%
アジア※	214,369	223,939	9,570	4.5%
オセアニア	145,261	176,518	31,257	21.5%
アジア※・オセアニア	359,630	400,457	40,827	11.4%
中近東	40,354	46,041	5,687	14.1%
アフリカ	79,188	99,043	19,855	25.1%
中近東・アフリカ	119,542	145,084	25,542	21.4%
合計	1,502,489	1,702,798	200,309	13.3%

※ 日本及び中国を除きます。

地域別の概況は以下のとおりです。

（日本）

日本では、新車需要が前年同期並みに推移しており、販売価格の改善などの影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

（米州）

北米では、一般建機の需要は、金利上昇の影響で住宅建設向けの減少傾向があるものの、レンタル、インフラ、エネルギー関連向けが引き続き堅調に推移しました。加えて、鉱山機械の需要が好調に推移したことや販売価格の改善の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。中南米では、経済の先行き不透明感などにより一般建機の需要が減少したものの、鉱山機械の需要は好調に推移しました。鉱山機械の部品・サービス売上げの増加や販売価格の改善の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

（欧州・CIS）

欧州では、金利上昇の影響で、主要市場の一つである英国やイタリアなどを中心に一般建機の需要が減少したものの、円安や販売価格の改善の影響により、売上高は前年同期を上回りました。CISでは、ウクライナ情勢に起因したサプライチェーン及び金融・経済の制約の影響から、売上高は前年同期を下回りました。

（中国）

中国では、不動産市況の低迷などに起因した経済活動の停滞により、需要が低迷したことから、売上高は前年同期を下回りました。

（アジア・オセアニア）

アジアでは、インドネシア、タイ、ベトナムなどで、公共事業予算執行遅れや経済の先行き不透明感により、一般建機の需要が減少したものの、インドネシアにおける鉱山機械需要が引き続き堅調に推移しました。円安の影響もあったことから、売上高は前年同期を上回りました。オセアニアでは、鉱山機械及び一般建機の需要が前年同期並みに推移したことに加え、部品・サービス売上げが増加したこともあり、売上高は前年同期を上回りました。

（中近東・アフリカ）

中近東では、サウジアラビアやUAEなどの産油国でのプロジェクトや、トルコの復興需要などにより、一般建機の需要が堅調に推移したことから、売上高は前年同期を上回りました。アフリカでは、鉱山機械及び一般建機の需要が堅調に推移したことに加え、部品・サービス売上げが増加したこともあり、売上高は前年同期を上回りました。

なお、建設機械・車両事業セグメントの生産規模は、約1兆8,730億円（販売価格ベース、連結ベース）でした。



② リテールファイナンス事業セグメント

金利上昇や円安の影響により、売上高は475億円（前年同期比14.5%増加）となりました。セグメント利益は、前年同期に北米で計上した貸倒引当金の戻入益がなくなったことなどもあり、130億円（前年同期比12.5%減少）となりました。

③ 産業機械他事業セグメント

自動車産業向けの鍛圧機械、板金機械、工作機械において、大型プレスの販売が増加したため、売上高は850億円（前年同期比1.6%増加）となりました。セグメント利益は、半導体産業向けエキシマレーザー関連事業において、世界的な半導体需要の減少による影響を受けたことなどにより、44億円（前年同期比59.8%減少）となりました。ギガフォトン(株)では、2022年7月より着手していた生産棟の新社屋が竣工し、将来的なエキシマレーザー関連事業の需要増加に対応するため、生産能力の2.5倍増強（2020年度比）を図りました。

なお、産業機械他事業セグメントの生産規模は、約1,121億円（販売価格ベース、連結ベース）でした。

(2) 財政状態・キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）の財政状態は、米ドルなどに対して為替が前連結会計年度末（2023年3月31日）に比べ円安となったことに加え、棚卸資産などの増加により、総資産は前連結会計年度末に比べ5,282億円増加の5兆4,041億円となりました。有利子負債残高は、前連結会計年度末に比べ988億円増加の1兆1,525億円となりました。また、株主資本は前連結会計年度末に比べ3,256億円増加の2兆8,653億円となりました。これらの結果、株主資本比率は前連結会計年度末に比べ0.9ポイント増加の53.0%となりました。

当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産が増加したものの、四半期純利益などにより、1,873億円の収入（前年同期比1,618億円の収入増加）となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、固定資産の購入などにより、814億円の支出（前年同期比39億円の支出減少）となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、コマーシャル・ペーパーの償還などにより、796億円の支出（前年同期は456億円の収入）となりました。各キャッシュ・フローの合計に為替変動の影響を加えた結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は前連結会計年度末に比べ273億円増加し、3,173億円となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当第2四半期連結累計期間において、会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定について、重要な変更はありません。

なお、ウクライナ情勢に起因するサプライチェーンや金融・経済の混乱等が当社グループの財政状態及び経営成績に与える影響については、収束時期等が不透明であるものの、現時点で入手可能な情報や予測に基づき、今後も一定程度当該影響が継続すると仮定しています。会計上の見積りの中でも比較的重要性のある信用損失見積額の算定、繰延税金資産の回収可能性の判断、長期性資産及び営業権の減損の判定については、当該仮定を含んだ最善の見積りを行っていますが、今後の実際の推移が当該仮定と乖離する場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当第2四半期連結累計期間において、経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について、重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について、重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の当社グループの研究開発費は488億円です。なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,955,000,000
計	3,955,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月10日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	973,810,620	973,810,620	東京証券取引所 プライム市場	権利内容に何ら 限定のない 当社における 標準となる株式 単元株式数100株
計	973,810,620	973,810,620	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### ①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### ②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減額 (百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2023年9月1日 (注)	359,690	973,810,620	676	72,795	676	142,814

(注) 譲渡制限付株式報酬の支給を目的とした有償第三者割当

発行価格 3,760円

資本組入額 1,880円

割当先 当社取締役(社外取締役を除く)及び使用人、並びに当社子会社の取締役及び使用人 計88名

## (5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合（%）
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	162,687	17.19
株式会社日本カストディ銀行（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番12号	66,954	7.07
THE BANK OF NEW YORK MELLON AS DEPOSITARY BANK FOR DEPOSITARY RECEIPT HOLDERS (常任代理人 株式会社三井住友銀行)	240 GREENWICH STREET, 8TH FLOOR WEST, NEW YORK, NY 10286 U. S. A. (東京都千代田区丸の内1丁目1番2号)	24,560	2.59
STATE STREET BANK WEST CLIENT-TREATY 505234 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	1776 HERITAGE DRIVE, NORTH QUINCY, MA 02171, U. S. A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	23,602	2.49
JPモルガン証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目7番3号	22,352	2.36
太陽生命保険株式会社	東京都中央区日本橋2丁目7番1号	22,200	2.34
日本生命保険相互会社 (常任代理人 日本マスタートラスト信 託銀行株式会社)	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 (東京都港区浜松町2丁目11番3号)	21,301	2.25
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	P. O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U. S. A. (東京都港区港南2丁目15番1号)	14,601	1.54
JP MORGAN CHASE BANK 385632 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15番1号)	13,121	1.38
JP MORGAN CHASE BANK 385781 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済 営業部)	25 BANK STREET, CANARY WHARF, LONDON, E14 5JP, UNITED KINGDOM (東京都港区港南2丁目15番1号)	12,318	1.30
計	—	383,700	40.54

- (注) 1. 発行済株式（自己株式を除く）の総数に対する所有株式数の割合は、小数点第3位を切り捨てて記載しています。
2. 上記のほか、当社が所有している自己株式27,422千株があります。
3. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）、株式会社日本カストディ銀行（信託口）の所有株式数は、全数が信託業務に係る株式です。

4. 三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社及び共同保有者である日興アセットマネジメント株式会社が連名により、2020年9月23日付で、当社株式の大量保有報告書を提出していますが、2023年9月30日現在の実質保有状況等の確認ができませんので、上記大株主の状況は、株主名簿上の保有株式に基づき記載しています。

なお、当該大量保有報告書の内容は次のとおりです。

・氏名又は名称、住所及び保有株式数（2020年9月15日現在）

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	発行済株式総数に対する割合 (%)
三井住友トラスト・アセットマネジメント株式会社	東京都港区芝公園一丁目1番1号	29,750,700	3.06
日興アセットマネジメント株式会社	東京都港区赤坂九丁目7番1号	21,060,300	2.16
計	—	50,811,000	5.22

5. 野村アセットマネジメント株式会社が、2022年5月20日付で、当社株式の大量保有報告書の変更報告書No. 4を提出していますが、2023年9月30日現在の実質保有状況等の確認ができませんので、上記大株主の状況は、株主名簿上の保有株式に基づき記載しています。

なお、当該変更報告書の内容は次のとおりです。

・氏名又は名称、住所及び保有株式数（2022年5月13日現在）

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	発行済株式総数に対する割合 (%)
野村アセットマネジメント株式会社	東京都江東区豊洲二丁目2番1号	50,169,400	5.16
計	—	50,169,400	5.16

6. ブラックロック・ジャパン株式会社及び共同保有者9名が連名により、2022年6月21日付で、当社株式の大量保有報告書の変更報告書No. 3を提出していますが、2023年9月30日現在の実質保有状況等の確認ができませんので、上記大株主の状況は、株主名簿上の保有株式に基づき記載しています。

なお、当該変更報告書の内容は次のとおりです。

・氏名又は名称、住所及び保有株式数（2022年6月15日現在）

氏名又は名称	住所	保有株式数 (株)	発行済株式総数に対する割合 (%)
ブラックロック・ジャパン株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	17,755,737	1.82
ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー	米国 デラウェア州 ウィルミントン リトル・フォールズ・ドライブ 251	16,128,254	1.66
ブラックロック・インベストメント・マネジメンツ・エルエルシー	米国 デラウェア州 ウィルミントン リトル・フォールズ・ドライブ 251	2,333,771	0.24
ブラックロック (ネザールランド) BV	オランダ王国 アムステルダム HA1096 アムステルプレイン 1	2,579,836	0.27
ブラックロック・ファンド・マネジャーズ・リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	3,166,328	0.33
ブラックロック (ルクセンブルグ) エス・エー	ルクセンブルク大公国 L-1855 J.F. ケネディ通り 35A	1,108,400	0.11
ブラックロック・アセット・マネジメント・アイルランド・リミテッド	アイルランド共和国 ダブリン ボールスブリッジ ボールスブリッジパーク 2 1階	6,551,766	0.67
ブラックロック・ファンド・アドバイザーズ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	14,636,900	1.50
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エス、エイ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	13,606,302	1.40
ブラックロック・インベストメント・マネジメンツ (ユーケー) リミテッド	英国 ロンドン市 スログモートン・アベニュー 12	1,922,443	0.20
計	—	79,789,737	8.20

## (6)【議決権の状況】

## ①【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 27,422,600	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式 単元株式数100株
	(相互保有株式) 普通株式 875,600	—	同上
完全議決権株式(その他)	普通株式 944,633,200	9,446,332	同上
単元未満株式	普通株式 879,220	—	同上
発行済株式総数	973,810,620	—	—
総株主の議決権	—	9,446,332	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が7,000株(議決権の数70個)含まれています。

## ②【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総 数に対する所 有株式数の割 合(%)
株式会社小松製作所	東京都港区赤坂二丁目3番6号	27,422,600	—	27,422,600	2.81
コマツ栃木株式会社(注)1	栃木県宇都宮市平出工業団地38番地12	287,000	13,900	300,900	0.03
コマツ道東株式会社	北海道帯広市西二十四条北一丁目3番4号	300,000	—	300,000	0.03
コマツ秋田株式会社(注)1	秋田県秋田市川尻大川町9番48号	—	96,700	96,700	0.00
コマツ淡路株式会社(注)1	兵庫県洲本市桑間一丁目1番7号	—	96,300	96,300	0.00
コマツ山陰株式会社(注)1	島根県松江市東津田町1876番地	10,000	23,900	33,900	0.00
コマツ茨城株式会社(注)1	茨城県水戸市吉沢町358番地の1	—	32,400	32,400	0.00
浜松小松フォークリフト株式会社	静岡県浜松市西区桜台一丁目6番15号	6,000	—	6,000	0.00
静岡小松フォークリフト株式会社	静岡県静岡市駿河区北丸子一丁目31番4号	3,800	—	3,800	0.00
大分小松フォークリフト株式会社	大分県大分市豊海四丁目2番12号	3,000	—	3,000	0.00
コマツ宮崎株式会社(注)1	宮崎県宮崎市佐土原町下那珂2957番地12	—	2,300	2,300	0.00
山形小松フォークリフト株式会社	山形県山形市流通センター一丁目2番地の1	300	—	300	0.00
計	—	28,032,700	265,500	28,298,200	2.90

(注) 1. 「他人名義」欄に記載している株式の名義人は、小松ディーラー持株会(東京都港区赤坂二丁目3番6号)です。

2. 「発行済株式総数に対する所有株式数の割合」は、小数点第3位を切り捨てて記載しているため、各株主の割合を合計したものと「計」で表示している割合とは一致しません。

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年（2007年）内閣府令第64号）附則第4条の規定により、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準による用語、様式及び作成方法に準拠して作成しています。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前連結会計年度末 (2023年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(資産の部)					
流動資産					
現金及び現金同等物	※16	289,975		317,287	
受取手形及び売掛金	※1, 3, 10	1,111,913		1,117,992	
棚卸資産	※4	1,227,208		1,491,518	
その他の流動資産	※15, 16, 17	207,479		248,316	
流動資産合計		2,836,575	58.2	3,175,113	58.8
長期売上債権	※1, 3, 10, 16	569,691	11.7	659,650	12.2
投資					
関連会社に対する投資及び貸付金		52,325		55,702	
投資有価証券	※5	10,556		11,172	
その他		3,418		3,736	
投資合計		66,299	1.4	70,610	1.3
有形固定資産					
一減価償却累計額(前連結会計年度末1,018,981百万円、当第2四半期連結会計期間末1,075,374百万円)控除後		836,442	17.1	881,080	16.2
オペレーティングリース使用权資産		61,052	1.3	68,121	1.3
営業権		207,060	4.2	226,379	4.2
その他の無形固定資産	※6	167,292	3.4	172,027	3.2
繰延税金及びその他の資産	※15, 16, 17	131,436	2.7	151,105	2.8
資産合計		4,875,847	100.0	5,404,085	100.0

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

区分	注記番号	前連結会計年度末 (2023年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
(負債の部)					
流動負債					
短期債務	※16	310,738		412,698	
長期債務 －1年以内期限到来分	※16	176,835		84,829	
支払手形及び買掛金	※1, 7	362,360		348,673	
未払法人税等		64,495		67,040	
短期オペレーティングリース負債		17,878		19,368	
その他の流動負債	※10, 15, 16, 17	439,355		508,674	
流動負債合計		1,371,661	28.1	1,441,282	26.7
固定負債					
長期債務	※16	566,189		655,019	
退職給付債務		90,348		94,169	
長期オペレーティングリース負債		44,913		50,574	
繰延税金及びその他の負債	※10, 15, 16, 17	124,781		146,229	
固定負債合計		826,231	17.0	945,991	17.5
負債合計		2,197,892	45.1	2,387,273	44.2
契約残高及び偶発債務	※14				
(純資産の部)					
資本金					
－普通株式					
授権株式数					
前連結会計年度末:		3,955,000,000株			
当第2四半期連結会計期間末:		3,955,000,000株			
発行済株式数					
前連結会計年度末:		973,450,930株	69,660	70,336	
当第2四半期連結会計期間末:		973,810,620株			
自己株式控除後発行済株式数					
前連結会計年度末:		945,594,299株			
当第2四半期連結会計期間末:		945,973,343株			
資本剰余金		135,886		136,516	
利益剰余金					
利益準備金		48,508		48,670	
その他の剰余金		2,114,789		2,247,591	
その他の包括利益(△損失)累計額	※9, 15	219,951		411,271	
自己株式					
－取得価額					
前連結会計年度末:		27,856,631株	△49,153	△49,132	
当第2四半期連結会計期間末:		27,837,277株			
株主資本合計		2,539,641	52.1	2,865,252	53.0
非支配持分		138,314	2.8	151,560	2.8
純資産合計		2,677,955	54.9	3,016,812	55.8
負債及び純資産合計		4,875,847	100.0	5,404,085	100.0

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照



## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

## 【四半期連結損益計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
売上高	※9, 10, 12, 15	1,618,735	100.0	1,822,994	100.0
売上原価	※6, 8, 9, 15	1,147,450	70.9	1,237,198	67.9
販売費及び一般管理費	※6, 8, 11	258,534	16.0	287,853	15.8
その他の営業収益 (△費用)		△1,117	△0.1	△967	△0.1
営業利益		211,634	13.1	296,976	16.3
その他の収益 (△費用)					
受取利息及び配当金		5,012	0.3	9,187	0.5
支払利息		△10,892	△0.7	△25,003	△1.4
その他 (純額)	※5, 8, 9, 15	22,005	1.4	6,860	0.4
合計		16,125	1.0	△8,956	△0.5
税引前四半期純利益		227,759	14.1	288,020	15.8
法人税等	※9				
当期分		63,806		86,957	
繰延分		△4,939		△12,318	
合計		58,867	3.6	74,639	4.1
持分法投資損益調整前四半期純利益		168,892	10.4	213,381	11.7
持分法投資損益		2,072	0.1	3,833	0.2
四半期純利益		170,964	10.6	217,214	11.9
控除：非支配持分に帰属する四半期純利益		8,396	0.5	11,666	0.6
当社株主に帰属する四半期純利益		162,568	10.0	205,548	11.3
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	※13				
基本的			171.96円		217.36円
希薄化後			171.94円		217.34円

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

【四半期連結包括利益計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益		170,964	217,214
その他の包括利益 (△損失) - 税控除後			
外貨換算調整勘定	※9	247,983	203,687
年金債務調整勘定	※8, 9	279	393
未実現デリバティブ評価損益	※9, 15	△38	△765
合計		248,224	203,315
四半期包括利益		419,188	420,529
控除：非支配持分に帰属する四半期包括利益		19,779	23,661
当社株主に帰属する四半期包括利益		399,409	396,868

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

## 【第2四半期連結会計期間】

## 【四半期連結損益計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)	
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)
売上高	※9, 10, 12, 15	854,927	100.0	923,443	100.0
売上原価	※6, 8, 9, 15	602,049	70.4	625,957	67.8
販売費及び一般管理費	※6, 8, 11	134,495	15.7	146,351	15.8
その他の営業収益 (△費用)		△311	△0.0	△1,180	△0.1
営業利益		118,072	13.8	149,955	16.2
その他の収益 (△費用)					
受取利息及び配当金		2,776	0.3	4,700	0.5
支払利息		△6,220	△0.7	△13,043	△1.4
その他 (純額)	※5, 8, 9, 15	656	0.1	△1,760	△0.2
合計		△2,788	△0.3	△10,103	△1.1
税引前四半期純利益		115,284	13.5	139,852	15.1
法人税等	※9				
当期分		39,509		51,808	
繰延分		△10,157		△15,852	
合計		29,352	3.4	35,956	3.9
持分法投資損益調整前四半期純利益		85,932	10.1	103,896	11.3
持分法投資損益		1,027	0.1	1,647	0.2
四半期純利益		86,959	10.2	105,543	11.4
控除：非支配持分に帰属する四半期純利益		4,845	0.6	5,422	0.6
当社株主に帰属する四半期純利益		82,114	9.6	100,121	10.8
1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益	※13				
基本的			86.85円		105.87円
希薄化後			86.84円		105.86円

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

【四半期連結包括利益計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
		金額 (百万円)	金額 (百万円)
四半期純利益		86,959	105,543
その他の包括利益－税控除後			
外貨換算調整勘定	※9	50,458	46,909
年金債務調整勘定	※8, 9	103	142
未実現デリバティブ評価損益	※9, 15	1,102	552
合計		51,663	47,603
四半期包括利益		138,622	153,146
控除：非支配持分に帰属する四半期包括利益		7,813	8,124
当社株主に帰属する四半期包括利益		130,809	145,022

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

## (3) 【四半期連結純資産計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

(金額：百万円)

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益剰余金		その他の 包括利益 (△損失) 累計額	自己株式	株主資本 合計	非支配 持分	純資産 合計
				利益 準備金	その他の 剰余金					
期首残高		69,393	139,572	47,903	1,902,501	122,414	△49,272	2,232,511	123,766	2,356,277
現金配当	※19				△52,963			△52,963	△7,458	△60,421
利益準備金への振替				178	△178			—		—
持分変動及びその他			△3,903			1,476	△77	△2,504	△1,061	△3,565
四半期純利益					162,568			162,568	8,396	170,964
その他の包括利益 (△損失)－税控除後	※9					236,841		236,841	11,383	248,224
新株予約権の行使	※11		△49					△49		△49
自己株式の購入等							△17	△17		△17
自己株式の売却等			51				180	231	103	334
譲渡制限付株式報酬	※11	267	265					532		532
四半期末残高		69,660	135,936	48,081	2,011,928	360,731	△49,186	2,577,150	135,129	2,712,279

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(金額：百万円)

	注記 番号	資本金	資本 剰余金	利益剰余金		その他の 包括利益 (△損失) 累計額	自己株式	株主資本 合計	非支配 持分	純資産 合計
				利益 準備金	その他の 剰余金					
期首残高		69,660	135,886	48,508	2,114,789	219,951	△49,153	2,539,641	138,314	2,677,955
会計基準アップデート 2016-13適用による累積 影響額－税控除後	※1, 3				△1,634			△1,634	△126	△1,760
現金配当	※19				△70,950			△70,950	△10,283	△81,233
利益準備金への振替				162	△162			—		—
持分変動及びその他			4					4	△6	△2
四半期純利益					205,548			205,548	11,666	217,214
その他の包括利益 (△損失)－税控除後	※9					191,320		191,320	11,995	203,315
新株予約権の行使	※11		△54					△54		△54
自己株式の購入等							△25	△25		△25
自己株式の売却等			8				46	54		54
譲渡制限付株式報酬	※11	676	672					1,348		1,348
四半期末残高		70,336	136,516	48,670	2,247,591	411,271	△49,132	2,865,252	151,560	3,016,812

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

## (4) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

株式会社小松製作所及び連結子会社

区分	注記番号	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)		当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	
		金額 (百万円)		金額 (百万円)	
営業活動によるキャッシュ・フロー					
四半期純利益			170,964		217,214
四半期純利益から営業活動による現金及び現金同等物の増加(純額)への調整					
減価償却費等		73,075		76,444	
法人税等繰延分		△4,939		△12,318	
投資有価証券評価損益及び減損		△358		28	
固定資産売却損益		△251		△600	
固定資産廃却損		1,094		1,169	
未払退職金及び退職給付債務の増減		812		△276	
資産及び負債の増減					
受取手形及び売掛金の増減		△378		52,112	
棚卸資産の増加		△168,312		△141,238	
支払手形及び買掛金の減少		△3,432		△34,006	
未払法人税等の増減		△15,609		1,215	
その他(純額)		△27,131	△145,429	27,569	△29,901
営業活動による現金及び現金同等物の増加(純額)			25,535		187,313
投資活動によるキャッシュ・フロー					
固定資産の購入		△86,257		△88,717	
固定資産の売却		8,958		7,510	
投資有価証券等の購入		△1,406		△165	
子会社株式及び事業の売却(現金流出額との純額)		12,295		—	
子会社及び持分法適用会社株式等の取得(現金取得額との純額)		△18,000		—	
その他(純額)		△911		△34	
投資活動による現金及び現金同等物の減少(純額)			△85,321		△81,406
財務活動によるキャッシュ・フロー					
満期日が3カ月超の借入債務による調達		301,968		230,902	
満期日が3カ月超の借入債務の返済		△338,515		△273,270	
満期日が3カ月以内の借入債務の増加(純額)		145,087		43,815	
配当金支払		△52,963		△70,950	
子会社の株式発行による収入		2,012		—	
その他(純額)		△11,975		△10,106	
財務活動による現金及び現金同等物の増減(純額)			45,614		△79,609
為替変動による現金及び現金同等物への影響額			19,636		1,014
現金及び現金同等物純増加額			5,464		27,312
現金及び現金同等物期首残高			315,360		289,975
現金及び現金同等物四半期末残高			320,824		317,287

※ 「四半期連結財務諸表に関する注記」を参照

(注) 前第2四半期連結累計期間の連結キャッシュ・フロー計算書を当第2四半期連結累計期間の表示にあわせて組替再表示しています。

## 四半期連結財務諸表に関する注記

### 1. 四半期連結財務諸表の作成基準及び重要な会計方針

#### 四半期連結財務諸表の作成基準

- ① 当社の四半期連結財務諸表は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準（以下、「米国会計基準」）に準拠して作成しています。
- ② 当四半期連結財務諸表上では、連結会社の会計帳簿には記帳されていない、いくつかの修正が加えられています。それらは主として注記22「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法について ②会計処理基準について」で述べられている日米会計基準の相違によるものです。

#### 連結財務諸表の作成状況及び米国証券取引委員会における登録状況

当社は、1964年の欧州における外貨建転換社債の発行を契機として、1963年より米国会計基準での連結財務諸表を作成しています。

当社は、1967年に米国で発行の転換社債を米国証券取引委員会（以下、「SEC」）に登録しました。また、1970年の新株式発行に伴い米国株主に対する割当てのための普通株式をSECに登録しました。以来、外国発行会社として、米国1934年証券取引所法に基づいて、米国会計基準に基づいて作成された連結財務諸表を含む年次報告書をSECに届け出、登録していましたが、2014年6月30日にSECへの登録を廃止しました。

#### 重要な会計方針

##### 新たに適用した会計基準

米国財務会計基準審議会は、2016年6月に会計基準アップデート2016-13「金融商品—信用損失：金融商品に関する信用損失の測定」を発行しました。同アップデートは、多くの金融資産について、発生損失モデルではなく予想信用損失モデルに基づいて損失を認識することを要求しています。予想信用損失モデルでは、対象となる金融資産の残存期間に発生することが見込まれる予想信用損失をただちに認識することになります。当社グループは、同アップデートを2023年4月1日より開始する連結会計年度及びその四半期連結会計期間から適用しています。同アップデートの適用にあたり、適用開始期間の期首の利益剰余金で累積影響額を調整する修正遡及適用アプローチにより1,634百万円を期首の利益剰余金から減額しています。詳細は、注記3「売上債権及び信用損失引当金」に記載しています。

米国財務会計基準審議会は、2022年9月に会計基準アップデート2022-04「サプライヤー・ファイナンス・プログラムに係る債務の開示」を発行しました。同アップデートは、製品やサービスの購入時にサプライヤー・ファイナンス・プログラムを利用する企業に対し、プログラムの主要な条件や期末の債務残高に関する情報、期首から期末までの変動を開示することを要求しています。当社グループは、同アップデートのプログラムの主要な条件や期末の債務残高に関する情報の開示要求について、2023年4月1日より開始する連結会計年度及びその四半期連結会計期間から適用しています。なお、同アップデートのうち、期首から期末までの変動の開示要求については、2023年12月16日以降開始する連結会計年度から適用されます。同アップデートの適用が、当社グループの財政状態及び経営成績に与える影響はありません。詳細は、注記7「買入債務」に記載しています。

上記を除き、直近の有価証券報告書に記載された重要な会計方針に対し、重要な変更はありません。

なお、ウクライナ情勢に起因するサプライチェーンや金融・経済の混乱等が当社グループの財政状態及び経営成績に与える影響については、収束時期等が不透明であるものの、現時点で入手可能な情報や予測に基づき、今後も一定程度当該影響が継続すると仮定しています。会計上の見積りの中でも比較的重要性のある信用損失見積額の算定、繰延税金資産の回収可能性の判断、長期性資産及び営業権の減損の判定については、当該仮定を含んだ最善の見積りを行っていますが、今後の実際の推移が当該仮定と乖離する場合には、当社グループの財政状態及び経営成績に影響を与える可能性があります。

### 2. 補足的キャッシュ・フロー情報

四半期連結キャッシュ・フロー計算書の補足的情報は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
現金支出項目		
利息支払額	11,105	24,215
法人税等支払額（純額）	89,319	96,394

### 3. 売上債権及び信用損失引当金

#### ① ポートフォリオ・セグメント

当社グループは、売上債権及び信用損失引当金を事業セグメント別に管理しており、ポートフォリオ・セグメントも同様に「建設機械・車両」、「リテールファイナンス」、「産業機械他」の3つに区分しています。

建設機械・車両及び産業機械他セグメントにおいては、主に顧客への製品、補給部品、サービス等の販売対価として計上した売掛金や受取手形を保有しています。これらの売上債権は概ね1年以内に代金の回収が行われるため、回収不能により損失が発生する可能性は低いと考えています。

リテールファイナンスセグメントにおいては、主に建設・鉱山機械購入時における顧客の一時的な資金負担を平準化する目的で、割賦販売及び販売型リースを提供しています。当社グループは、融資対象の機械に対し担保権を設定するなどして、リテールファイナンスに係る売上債権（以下、「リテールファイナンス債権」）の保全に努めています。当社グループの回収努力にもかかわらず債務不履行の状況を解消できなかった場合は、各国の法的要件を満たしたうえで、当該融資対象の機械を回収し、当社グループの販売網を通じて第三者に販売することができます。リテールファイナンス債権は、回収が長期間に及ぶうえに、信用損失見積額の算定及び担保による回収可能見込額の算定には不確実性が伴います。当社グループは過去の平均損失率に住宅着工件数等の関連する経済指標を加味した予想信用損失率を用いて、リテールファイナンス債権に対する信用損失引当金を計上しています。リテールファイナンス債権の残存期間のうち合理的かつ裏付け可能な方法で予測できる範囲を超える期間については、過去の貸倒実績に基づいて残存期間の信用損失を見積もっています。また、顧客の財政状況の悪化や支払い遅れの長期化等により回収可能性に懸念があると判断されるリテールファイナンス債権に対しては、顧客ごとの信用状況や未回収債権の状況調査及び担保となる機械の市場価格調査を行い、入手可能な情報に基づいて信用損失引当金を個別に計上しています。なお、当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）において、信用損失見積額の算定方法に重要な変更はありません。

当第2四半期連結累計期間におけるセグメント別の信用損失引当金の変動は次のとおりです。

	当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）		
	建設機械・車両	リテールファイナンス	産業機械他
	百万円	百万円	百万円
信用損失引当金の変動：			
期首残高	7,325	15,160	170
会計基準適用に伴う調整	562	1,676	—
当期繰入（△戻入）	1,716	1,078	99
貸倒償却	△59	△886	△112
その他	1,992	2,071	146
期末残高	11,536	19,099	303
売上債権：			
期末残高	641,390	1,122,354	44,836

当第2四半期連結会計期間におけるセグメント別の信用損失引当金の変動は次のとおりです。

	当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）		
	建設機械・車両	リテールファイナンス	産業機械他
	百万円	百万円	百万円
信用損失引当金の変動：			
期首残高	10,808	18,650	209
当期繰入（△戻入）	590	382	95
貸倒償却	△32	△532	△2
その他	170	599	1
期末残高	11,536	19,099	303
売上債権：			
期末残高	641,390	1,122,354	44,836



建設機械・車両及び産業機械他のセグメントに区分される売上債権は、回収期間が短く、回収不能となるリスクが低いと見做され、以降の記載を省略しています。

② 売上債権の信用の質

当社グループは、リテールファイナンス債権について、支払期日より30日経過後も支払いが滞っている場合、延滞債権として認識しています。また、リテールファイナンス債権は、地域ごとに信用リスクの評価及び測定方法が類似しているため、当社グループではそれらの債権を地域別に細分化しています。

当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における経過日数別・組成年度別のリテールファイナンス債権残高は次のとおりです。

（百万円）

		当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）						
地域	経過日数	組成年度						合計
		2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	2019年度	2018年度以前	
日本	期日内及び30日以下	7,635	11,765	8,308	6,770	3,400	1,175	39,053
	31日－90日	—	—	—	—	—	1	1
	90日超	—	2	—	9	—	—	11
	計	7,635	11,767	8,308	6,779	3,400	1,176	39,065
北米	期日内及び30日以下	249,137	284,995	148,986	72,409	21,463	2,082	779,072
	31日－90日	196	199	378	182	116	50	1,121
	90日超	1	242	405	327	282	333	1,590
	計	249,334	285,436	149,769	72,918	21,861	2,465	781,783
中南米	期日内及び30日以下	16,119	20,495	12,920	4,178	1,258	3,390	58,360
	31日－90日	37	337	231	15	26	111	757
	90日超	41	99	157	25	629	3,812	4,763
	計	16,197	20,931	13,308	4,218	1,913	7,313	63,880
欧州	期日内及び30日以下	31,345	47,747	26,885	9,512	2,743	1,062	119,294
	31日－90日	1	7	95	1	1	4	109
	90日超	—	3	1	2	2	3	11
	計	31,346	47,757	26,981	9,515	2,746	1,069	119,414
大洋州	期日内及び30日以下	18,693	33,984	15,053	6,812	4,228	1,088	79,858
	31日－90日	—	—	—	4	—	—	4
	90日超	—	—	—	—	—	—	—
	計	18,693	33,984	15,053	6,816	4,228	1,088	79,862
その他の地域	期日内及び30日以下	6,725	10,720	14,592	4,616	632	105	37,390
	31日－90日	23	41	89	115	39	2	309
	90日超	—	5	58	81	80	427	651
	計	6,748	10,766	14,739	4,812	751	534	38,350
合計	期日内及び30日以下	329,654	409,706	226,744	104,297	33,724	8,902	1,113,027
	31日－90日	257	584	793	317	182	168	2,301
	90日超	42	351	621	444	993	4,575	7,026
	計	329,953	410,641	228,158	105,058	34,899	13,645	1,122,354

当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間に償却されたリテールファイナンス債権の組成年度別の内訳は次のとおりです。

	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
2023年度	—	—
2022年度	323	208
2021年度	304	210
2020年度	94	60
2019年度	129	40
2018年度以前	36	14
合計	886	532

③ 未収利息の計上を停止した売上債権

当社グループは、将来の回収見込みがないと判断した場合、当該リテールファイナンス債権にかかる未収利息の計上を停止しています。通常、未収利息の計上を停止しているリテールファイナンス債権は、延滞日数が90日を超えています。未収利息の計上を停止しているリテールファイナンス債権に対して現金回収があった場合には、契約条件に従って、それぞれ元本及び未収利息に充当しています。また、一定額が継続的に入金されるなど、契約条件に従った元本の返済の可能性が高くなったと判断した場合、未収利息の計上を再開しています。未収利息の計上を停止する前に認識し未回収となっている未収利息について、回収不能と判断した場合、当該未収利息は信用損失引当金を通じて償却されます。

当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間において、未収利息の計上を停止している債権に対する利息金額に重要性はありません。

当第2四半期連結会計期間末におけるリテールファイナンス債権の未収利息計上の停止に関する情報は次のとおりです。

(百万円)

当第2四半期連結会計期間末 (2023年9月30日)			
地域	未収利息計上を停止し 信用損失引当金を計上 している債権	未収利息計上を停止 しているが 信用損失引当金を計上 していない債権	延滞日数が90日超で 未収利息を計上 している債権
日本	—	—	11
北米	—	—	1,590
中南米	4,668	—	97
欧州	—	—	11
大洋州	—	—	—
その他の地域	555	—	97
合計	5,223	—	1,806

④ 売上債権の条件緩和

当社グループでは債務者の財政難等により返済が困難な債権に関して、支払利息の軽減や満期の延長あるいは返済スケジュールの見直し等の条件緩和を行うことがあります。

当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間において、財政難となっている債務者に対して実施した条件緩和の影響は重要ではありません。財政難の債務者に対して行われる条件緩和は一般的に信用損失引当金の算定に織込まれているため、条件緩和の実施に伴って新たな信用損失引当金が計上されることは基本的にありません。

また、当第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結会計期間において、債務不履行となったリテールファイナンス債権の金額は重要ではありません。

#### 4. 棚卸資産

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における棚卸資産の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)
	百万円	百万円
製品（含む補給部品）	829,085	1,035,973
仕掛品	261,960	308,374
原材料及び貯蔵品	136,163	147,171
	1,227,208	1,491,518

#### 5. 投資有価証券

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）における、持分証券に係る実現損益及び未実現損益は以下のとおりであり、それぞれ四半期連結損益計算書のその他の収益（△費用）－その他（純額）の中に含まれています。

	前第2四半期 連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
	百万円	百万円
持分証券の当期の損益合計	358	△28
控除：持分証券の売却による当期の実現損益	△0	-
9月30日現在保有している持分証券の未実現損益	358	△28

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）における、持分証券に係る実現損益及び未実現損益は以下のとおりであり、それぞれ四半期連結損益計算書のその他の収益（△費用）－その他（純額）の中に含まれています。

	前第2四半期 連結会計期間 (自2022年7月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期 連結会計期間 (自2023年7月1日 至2023年9月30日)
	百万円	百万円
持分証券の当期の損益合計	86	△311
控除：持分証券の売却による当期の実現損益	△0	-
9月30日現在保有している持分証券の未実現損益	86	△311

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

当社グループは、市場性がなく、容易に算定可能な公正価値がない持分証券のうち、1株当たり純資産価値で評価している持分証券以外について、減損による評価下げ後の取得価額にて測定しています。また、当社グループは、同一発行体の同一又は類似する投資に関する秩序ある取引における観測可能な価格の変動を識別した場合は、当該持分証券を観測可能な取引が発生した日の公正価値で測定しています。これらの投資の帳簿価額は前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）において、それぞれ10,556百万円及び11,172百万円です。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末までに認識された減損又は観察可能な価格の変動による調整に重要性はありません。

## 6. その他の無形固定資産

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）におけるその他の無形固定資産は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)			当第2四半期連結会計期間末 (2023年9月30日)		
	取得価額	償却累計額	期末残高	取得価額	償却累計額	期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円	百万円
償却対象無形固定資産						
ソフトウェア	86,296	△41,912	44,384	95,352	△49,454	45,898
借地権	8,576	△2,685	5,891	8,945	△2,666	6,279
商標権	65,149	△26,288	38,861	71,469	△31,212	40,257
顧客関係	88,497	△45,024	43,473	93,076	△49,512	43,564
技術	43,858	△19,745	24,113	43,949	△20,360	23,589
その他	10,857	△8,037	2,820	13,221	△9,292	3,929
計	303,233	△143,691	159,542	326,012	△162,496	163,516
非償却無形固定資産			7,750			8,511
合計			167,292			172,027

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）における償却対象無形固定資産の償却費合計額は、それぞれ14,134百万円及び14,770百万円です。また、前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）における償却対象無形固定資産の償却費合計額は、それぞれ7,388百万円及び7,393百万円です。

## 7. 買入債務

当社及び一部の連結子会社は、第三者金融機関とサプライヤー・ファイナンス・プログラムに係る契約を締結しています。当社グループは、各サプライヤーと締結した取引契約に基づいて、第三者金融機関に対して60日から120日後に支払いを行います。サプライヤーは、当社グループ及び第三者金融機関と締結する三者間契約に基づき、当社グループ向け債権について自らの裁量で割引による早期支払いを第三者金融機関より受けることができます。当社グループは、当該プログラムのための担保資産あるいは第三者による保証の提供を行っていません。前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）におけるサプライヤー・ファイナンス・プログラムの債務金額は、それぞれ48,519百万円、40,222百万円であり、連結貸借対照表及び四半期連結貸借対照表の支払手形及び買掛金に含まれています。

## 8. 退職給付費用

当社グループの前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）における確定給付制度の期間純費用の内訳は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
勤務費用	4,371	4,414
利息費用	4,157	5,480
年金資産の期待収益	△5,606	△6,176
年金数理計算上の純損益償却額	163	181
過去勤務費用償却額	542	563
制度の一部清算による影響額	—	△59
期間純費用	3,627	4,403

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間におけるその他の退職後給付に係る期間純費用の内訳は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
勤務費用	228	197
利息費用	213	300
制度資産の期待収益	△294	△325
年金数理計算上の純損益償却額	△37	△76
過去勤務費用償却額	△155	△165
期間純費用	△45	△69

当社グループの前第2四半期連結会計期間（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）における確定給付制度の期間純費用の内訳は次のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
勤務費用	2,184	2,153
利息費用	2,123	2,822
年金資産の期待収益	△2,857	△3,174
年金数理計算上の純損益償却額	90	91
過去勤務費用償却額	273	284
制度の一部清算による影響額	—	—
期間純費用	1,813	2,176

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間におけるその他の退職後給付に係る期間純費用の内訳は次のとおりです。

	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
勤務費用	118	101
利息費用	113	154
制度資産の期待収益	△152	△167
年金数理計算上の純損益償却額	△19	△39
過去勤務費用償却額	△80	△85
期間純費用	△20	△36

確定給付制度及びその他の退職後給付に係る期間純費用のうち、勤務費用以外の要素は、四半期連結損益計算書のその他の収益（△費用）－その他（純額）の中に含まれています。

9. その他の包括利益（△損失）

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）におけるその他の包括利益（△損失）累計額の変動は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日至2022年9月30日)			
	外貨換算 調整勘定	年金債務 調整勘定	未実現 デリバティブ 評価損益	合 計
	百万円	百万円	百万円	百万円
期首残高	148,629	△24,171	△2,044	122,414
組替前のその他の包括利益 (△損失)－税控除後	249,931	△77	△13,625	236,229
組替修正額－税控除後	△1,948	356	13,587	11,995
その他の包括利益（△損失） －税控除後	247,983	279	△38	248,224
控除：非支配持分に帰属する その他の包括利益（△損失）	11,119	－	264	11,383
当社株主に帰属するその他の 包括利益（△損失）	236,864	279	△302	236,841
非支配持分との資本取引	1,476	－	－	1,476
四半期末残高	386,969	△23,892	△2,346	360,731

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日至2023年9月30日)			
	外貨換算 調整勘定	年金債務 調整勘定	未実現 デリバティブ 評価損益	合 計
	百万円	百万円	百万円	百万円
期首残高	242,738	△22,731	△56	219,951
組替前のその他の包括利益 (△損失)－税控除後	204,035	－	△10,382	193,653
組替修正額－税控除後	△348	393	9,617	9,662
その他の包括利益（△損失） －税控除後	203,687	393	△765	203,315
控除：非支配持分に帰属する その他の包括利益（△損失）	11,888	－	107	11,995
当社株主に帰属するその他の 包括利益（△損失）	191,799	393	△872	191,320
非支配持分との資本取引	－	－	－	－
四半期末残高	434,537	△22,338	△928	411,271

前第2四半期連結会計期間（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）におけるその他の包括利益（△損失）累計額の変動は次のとおりです。

前第2四半期連結会計期間  
（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）

	外貨換算 調整勘定	年金債務 調整勘定	未実現 デリバティブ 評価損益	合 計
	百万円	百万円	百万円	百万円
期首残高	339,388	△23,995	△3,357	312,036
組替前のその他の包括利益 （△損失）－税控除後	52,406	△87	△4,481	47,838
組替修正額－税控除後	△1,948	190	5,583	3,825
その他の包括利益（△損失） －税控除後	50,458	103	1,102	51,663
控除：非支配持分に帰属する その他の包括利益（△損失）	2,877	－	91	2,968
当社株主に帰属するその他の 包括利益（△損失）	47,581	103	1,011	48,695
非支配持分との資本取引	－	－	－	－
四半期末残高	386,969	△23,892	△2,346	360,731

当第2四半期連結会計期間  
（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

	外貨換算 調整勘定	年金債務 調整勘定	未実現 デリバティブ 評価損益	合 計
	百万円	百万円	百万円	百万円
期首残高	390,413	△22,480	△1,563	366,370
組替前のその他の包括利益 （△損失）－税控除後	47,257	△45	△3,187	44,025
組替修正額－税控除後	△348	187	3,739	3,578
その他の包括利益（△損失） －税控除後	46,909	142	552	47,603
控除：非支配持分に帰属する その他の包括利益（△損失）	2,785	－	△83	2,702
当社株主に帰属するその他の 包括利益（△損失）	44,124	142	635	44,901
非支配持分との資本取引	－	－	－	－
四半期末残高	434,537	△22,338	△928	411,271



前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間におけるその他の包括利益（△損失）累計額からの組替修正額の内訳は次のとおりです。

前第2四半期連結累計期間  
(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

組替修正額 (注)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける項目	
	百万円	
外貨換算調整勘定		
売却	1,948	その他の営業収益 (△費用)
	1,948	
	—	法人税等
	1,948	税控除後
年金債務調整勘定		
年金数理計算上の純損益償却額及び 過去勤務費用償却額	△513	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△513	
	157	法人税等
	△356	税控除後
未実現デリバティブ評価損益		
外国為替予約契約、金利スワップ及び クロスカレンシースワップ契約	△9,972	売上高
	179	売上原価
	△9,980	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△19,773	
	6,186	法人税等
	△13,587	税控除後
組替修正額合計	△11,995	税控除後

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

当第2四半期連結累計期間  
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

組替修正額 (注)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける項目	
	百万円	
外貨換算調整勘定		
売却	348	その他の営業収益 (△費用)
	348	
	—	法人税等
	348	税控除後
年金債務調整勘定		
年金数理計算上の純損益償却額及び 過去勤務費用償却額	△528	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△528	
	135	法人税等
	△393	税控除後
未実現デリバティブ評価損益		
外国為替予約契約、金利スワップ及び クロスカレンシースワップ契約	△6,307	売上高
	△88	売上原価
	△7,593	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△13,988	
	4,371	法人税等
	△9,617	税控除後
組替修正額合計	△9,662	税控除後

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間におけるその他の包括利益（△損失）累計額からの組替修正額の内訳は次のとおりです。

前第2四半期連結会計期間  
(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

組替修正額 (注)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける項目	
	百万円	
外貨換算調整勘定		
売却	1,948	その他の営業収益 (△費用)
	1,948	
	—	法人税等
	1,948	税控除後
年金債務調整勘定		
年金数理計算上の純損益償却額及び 過去勤務費用償却額	△264	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△264	
	74	法人税等
	△190	税控除後
未実現デリバティブ評価損益		
外国為替予約契約、金利スワップ及び クロスカレンシースワップ契約	△4,926	売上高
	△147	売上原価
	△3,105	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△8,178	
	2,595	法人税等
	△5,583	税控除後
組替修正額合計	△3,825	税控除後

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

当第2四半期連結会計期間  
(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

組替修正額 (注)	四半期連結損益計算書において 影響を受ける項目	
	百万円	
外貨換算調整勘定		
売却	348	その他の営業収益 (△費用)
	348	
	—	法人税等
	348	税控除後
年金債務調整勘定		
年金数理計算上の純損益償却額及び 過去勤務費用償却額	△251	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△251	
	64	法人税等
	△187	税控除後
未実現デリバティブ評価損益		
外国為替予約契約、金利スワップ及び クロスカレンシースワップ契約	△4,103	売上高
	89	売上原価
	△1,427	その他の収益 (△費用) — その他 (純額)
	△5,441	
	1,702	法人税等
	△3,739	税控除後
組替修正額合計	△3,578	税控除後

(注) 金額の△は利益の減少を示しています。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間におけるその他の包括利益（△損失）の各項目に対する税効果の金額は次のとおりです。

前第2四半期連結累計期間  
(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

	税効果考慮前	税効果	税効果考慮後
	百万円	百万円	百万円
外貨換算調整勘定			
組替前発生額	250,512	△581	249,931
組替修正額	△1,948	—	△1,948
増減（純額）	248,564	△581	247,983
年金債務調整勘定			
組替前発生額	△106	29	△77
組替修正額	513	△157	356
増減（純額）	407	△128	279
未実現デリバティブ評価損益			
組替前発生額	△19,927	6,302	△13,625
組替修正額	19,773	△6,186	13,587
増減（純額）	△154	116	△38
その他の包括利益（△損失）	248,817	△593	248,224

当第2四半期連結累計期間  
(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

	税効果考慮前	税効果	税効果考慮後
	百万円	百万円	百万円
外貨換算調整勘定			
組替前発生額	204,450	△415	204,035
組替修正額	△348	—	△348
増減（純額）	204,102	△415	203,687
年金債務調整勘定			
組替前発生額	5	△5	—
組替修正額	528	△135	393
増減（純額）	533	△140	393
未実現デリバティブ評価損益			
組替前発生額	△15,049	4,667	△10,382
組替修正額	13,988	△4,371	9,617
増減（純額）	△1,061	296	△765
その他の包括利益（△損失）	203,574	△259	203,315

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間におけるその他の包括利益（△損失）の各項目に対する税効果の金額は次のとおりです。

前第2四半期連結会計期間  
(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)

	税効果考慮前	税効果	税効果考慮後
	百万円	百万円	百万円
外貨換算調整勘定			
組替前発生額	52,619	△213	52,406
組替修正額	△1,948	—	△1,948
増減（純額）	50,671	△213	50,458
年金債務調整勘定			
組替前発生額	△120	33	△87
組替修正額	264	△74	190
増減（純額）	144	△41	103
未実現デリバティブ評価損益			
組替前発生額	△6,719	2,238	△4,481
組替修正額	8,178	△2,595	5,583
増減（純額）	1,459	△357	1,102
その他の包括利益（△損失）	52,274	△611	51,663

当第2四半期連結会計期間  
(自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)

	税効果考慮前	税効果	税効果考慮後
	百万円	百万円	百万円
外貨換算調整勘定			
組替前発生額	47,401	△144	47,257
組替修正額	△348	—	△348
増減（純額）	47,053	△144	46,909
年金債務調整勘定			
組替前発生額	△58	13	△45
組替修正額	251	△64	187
増減（純額）	193	△51	142
未実現デリバティブ評価損益			
組替前発生額	△4,574	1,387	△3,187
組替修正額	5,441	△1,702	3,739
増減（純額）	867	△315	552
その他の包括利益（△損失）	48,113	△510	47,603

## 10. 収益

### ① 収益の分解

事業の種類別セグメント、地域別に分解した収益については、注記20に記載しています。

### ② 契約残高

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における顧客との契約から生じた契約残高の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)
	百万円	百万円
債権 (注) 1	1,444,683	1,526,829
契約資産 (注) 2	2,516	2,649
契約負債 (注) 3	164,220	207,545

- (注) 1. 連結貸借対照表及び四半期連結貸借対照表の受取手形及び売掛金、長期売上債権に含まれています。貸倒引当金及び信用損失引当金控除前の金額です。
2. 連結貸借対照表及び四半期連結貸借対照表の受取手形及び売掛金に含まれています。貸倒引当金及び信用損失引当金控除前の金額です。
3. 連結貸借対照表及び四半期連結貸借対照表のその他の流動負債、繰延税金及びその他の負債に含まれています。

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）に認識した収益のうち、2022年3月31日現在の契約負債残高に含まれていたものは43,323百万円です。また、当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）に認識した収益のうち、前連結会計年度末の契約負債残高に含まれていたものは57,423百万円です。

前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）に認識した収益のうち、2022年3月31日現在の契約負債残高に含まれていたものは20,088百万円です。また、当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）に認識した収益のうち、前連結会計年度末の契約負債残高に含まれていたものは28,690百万円です。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間において、過去の期間に充足又は部分的に充足した履行義務から認識した収益の額に重要性はありません。

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間において、過去の期間に充足又は部分的に充足した履行義務から認識した収益の額に重要性はありません。

### ③ 残存履行義務に配分された取引価格

当第2四半期連結会計期間末で当初の予想残存期間が1年を超える残存履行義務に配分された取引価格は392,099百万円です。このうち、1年以内に177,642百万円が収益として認識されると予想しています。

## 11. 株式報酬制度

当社は、2017年度まで当社の取締役及び特定の使用人、並びに主要子会社の代表取締役に対して、当社株式を一定の価格で購入する権利を付与するストック・オプション制度を導入していました。

当社は、2018年度より当社の取締役（社外取締役を除く）及び使用人、並びに主要子会社の取締役及び使用人に対する中長期的なインセンティブの付与及び株主価値の共有を目的とする新たな報酬制度として、譲渡制限付株式報酬制度を導入しています。前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）において、販売費及び一般管理費に計上された報酬コストは、当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすものではありません。また、前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）においても、販売費及び一般管理費に計上された報酬コストは、当社グループの財政状態及び経営成績に重要な影響を及ぼすものではありません。当社は、報酬コストを公正価値基準法により認識しています。

12. リース

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）における当社グループが貸手となるリース収益の内訳は次のとおりであり、これらは四半期連結損益計算書の売上高に含まれています。

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
	百万円	百万円
販売型リース収益		
リース開始日に認識した収益(注)	47,231	55,675
利息収益	4,917	5,104
販売型リース収益合計	52,148	60,779
オペレーティングリース収益	39,179	42,664
リース収益合計	91,327	103,443

(注) リース開始日に認識した収益は、建設機械・車両事業セグメントの売上高に含まれています。

前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）における当社グループが貸手となるリース収益の内訳は次のとおりであり、これらは四半期連結損益計算書の売上高に含まれています。

	前第2四半期連結会計期間 (自2022年7月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自2023年7月1日 至2023年9月30日)
	百万円	百万円
販売型リース収益		
リース開始日に認識した収益(注)	19,371	27,051
利息収益	2,544	2,644
販売型リース収益合計	21,915	29,695
オペレーティングリース収益	19,852	22,610
リース収益合計	41,767	52,305

(注) リース開始日に認識した収益は、建設機械・車両事業セグメントの売上高に含まれています。

13. 1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益

当社は、当社の取締役（社外取締役を除く）及び使用人、並びに主要子会社の取締役及び使用人を対象とする譲渡制限付株式報酬制度を導入しています。当制度に基づいて発行された株式のうち、権利が確定していない譲渡制限付株式を参加証券（ある特定の条件下において未分配利益に対する権利を有する証券）として普通株式と区分しています。普通株式と譲渡制限付株式は当社株主に帰属する四半期純利益に対して同等の権利を有しています。

基本的1株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算の過程は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
当社株主に帰属する四半期純利益	162,568百万円	205,548百万円
参加証券（譲渡制限付株式）に帰属する四半期純利益	149百万円	174百万円
普通株主に帰属する四半期純利益	162,419百万円	205,374百万円
期中平均発行済株式数（自己株式控除後）	945,361,721株	945,662,653株
参加証券（譲渡制限付株式）の期中平均株式数	866,772株	802,585株
普通株式の期中平均株式数	944,494,949株	944,860,068株
基本的1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	171.96円	217.36円
	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
当社株主に帰属する四半期純利益	82,114百万円	100,121百万円
参加証券（譲渡制限付株式）に帰属する四半期純利益	74百万円	87百万円
普通株主に帰属する四半期純利益	82,040百万円	100,034百万円
期中平均発行済株式数（自己株式控除後）	945,416,571株	945,727,766株
参加証券（譲渡制限付株式）の期中平均株式数	853,489株	820,037株
普通株式の期中平均株式数	944,563,082株	944,907,729株
基本的1株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	86.85円	105.87円

希薄化後 1 株当たり当社株主に帰属する四半期純利益の計算の過程は次のとおりです。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 9 月 30 日)
当社株主に帰属する四半期純利益	162,568百万円	205,548百万円
参加証券（譲渡制限付株式）に帰属する四半期純利益	149百万円	174百万円
普通株主に帰属する四半期純利益	162,419百万円	205,374百万円
期中平均発行済株式数（自己株式控除後）	945,361,721株	945,662,653株
希薄化の影響		
加算：ストック・オプション	138,415株	84,550株
参加証券（譲渡制限付株式）の期中平均株式数	866,772株	802,585株
希薄化後普通株式の期中平均株式数	944,633,364株	944,944,618株
希薄化後 1 株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	171.94円	217.34円
	前第 2 四半期連結会計期間 (自 2022年 7 月 1 日 至 2022年 9 月 30 日)	当第 2 四半期連結会計期間 (自 2023年 7 月 1 日 至 2023年 9 月 30 日)
当社株主に帰属する四半期純利益	82,114百万円	100,121百万円
参加証券（譲渡制限付株式）に帰属する四半期純利益	74百万円	87百万円
普通株主に帰属する四半期純利益	82,040百万円	100,034百万円
期中平均発行済株式数（自己株式控除後）	945,416,571株	945,727,766株
希薄化の影響		
加算：ストック・オプション	130,706株	76,201株
参加証券（譲渡制限付株式）の期中平均株式数	853,489株	820,037株
希薄化後普通株式の期中平均株式数	944,693,788株	944,983,930株
希薄化後 1 株当たり当社株主に帰属する 四半期純利益	86.84円	105.86円



#### 14. 偶発債務

① 当社グループは、従業員及び関連会社等の借入金について、第三者に対する債務保証を行っています。従業員に関する債務保証の主なものは、住宅ローンに対するものです。関連会社等に関する債務保証は、信用補完のためのものです。契約期間中に従業員及び関連会社等が債務不履行に陥った場合、当社グループは保証債務の履行義務を負います。債務保証の契約期間は、従業員の住宅ローンについては10年から30年、関連会社等の借入金については1年から5年です。前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）において、債務不履行が生じた場合に当社グループが負う割引前の最高支払額は、それぞれ14,966百万円及び17,171百万円です。当第2四半期連結会計期間末において、これらの債務保証について認識されている負債の公正価値には重要性はありません。これらの債務保証の一部は、当社グループへの担保の差入及び保険契約により担保されています。

当社グループは、子会社の営業上の契約履行義務について、銀行等の信用状発行等を通じて保証を行っています。子会社が契約義務を履行できない場合、当社グループは銀行等に対し、発生した債務を負担する必要があります。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、子会社の営業上の契約不履行が生じた場合に当社グループが負う割引前の最高支払額は、それぞれ14,683百万円及び16,934百万円です。

当社は、これらの偶発債務による損失が仮に発生したとしても四半期連結財務諸表に重要な影響を及ぼすものではないと考えています。

② 当社グループには通常の営業の過程で生じたものを中心とする種々の係争中の案件がありますが、経営者及び弁護士の見解では当社グループの財政状態に重要な影響を与えずに解決される見込みです。

③ 当社グループは、世界中の得意先、ディーラー及び関係会社を相手として営業活動を行っており、それらからの売掛金及びそれらに対する保証は、信用リスクが集中しないよう分散されています。経営者は、債権から設定済の引当金を超える損失は発生しないと考えています。

15. 金融派生商品

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における金融派生商品の契約残高は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)
	百万円	百万円
外国為替予約契約		
外国為替売却予約契約	351,525	387,185
外国為替買入予約契約	211,015	244,579
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	174,303	197,986

前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末において、連結貸借対照表及び四半期連結貸借対照表に計上されている金融派生商品の公正価値は次のとおりです。（注記16、17参照）

前連結会計年度末 (2023年3月31日)				
ヘッジ指定されている 金融派生商品	金融派生商品資産		金融派生商品負債	
	連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)	連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)
外国為替予約契約	その他の流動資産	915	その他の流動負債	1,530
	繰延税金及びその他の資産	11	繰延税金及びその他の負債	28
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	その他の流動資産	74	その他の流動負債	1,154
	繰延税金及びその他の資産	959	繰延税金及びその他の負債	507
計		1,959		3,219
ヘッジ指定されていない 金融派生商品	金融派生商品資産		金融派生商品負債	
	連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)	連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)
外国為替予約契約	その他の流動資産	3,875	その他の流動負債	6,461
	繰延税金及びその他の資産	91	繰延税金及びその他の負債	100
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	その他の流動資産	4,415	その他の流動負債	317
	繰延税金及びその他の資産	—	繰延税金及びその他の負債	—
計		8,381		6,878
金融派生商品合計		10,340		10,097

当第2四半期連結会計期間末 (2023年9月30日)				
ヘッジ指定されている 金融派生商品	金融派生商品資産		金融派生商品負債	
	四半期連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)	四半期連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)
外国為替予約契約	その他の流動資産	815	その他の流動負債	5,352
	繰延税金及びその他の資産	8	繰延税金及びその他の負債	342
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	その他の流動資産	62	その他の流動負債	2,096
	繰延税金及びその他の資産	1,326	繰延税金及びその他の負債	581
計		2,211		8,371
ヘッジ指定されていない 金融派生商品	金融派生商品資産		金融派生商品負債	
	四半期連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)	四半期連結貸借対照表計上科目	公正価値 (百万円)
外国為替予約契約	その他の流動資産	3,929	その他の流動負債	4,468
	繰延税金及びその他の資産	69	繰延税金及びその他の負債	413
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	その他の流動資産	4,947	その他の流動負債	33
	繰延税金及びその他の資産	—	繰延税金及びその他の負債	—
計		8,945		4,914
金融派生商品合計		11,156		13,285

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）における、金融派生商品の四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書への影響は次のとおりです。

キャッシュ・フローヘッジにおける金融派生商品

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日至2022年9月30日)		
	その他の包括利益(△損失) に認識された金融派生商品 損益の金額 (百万円)	その他の包括利益(△損失)累計額から 損益に振替えられた金融派生商品損益	
		四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	△20,929	売上高	△9,972
		売上原価	176
		その他の収益(△費用)－その他(純額)	△9,980
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	1,002	売上原価	3
計	△19,927		△19,773

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日至2023年9月30日)		
	その他の包括利益(△損失) に認識された金融派生商品 損益の金額 (百万円)	その他の包括利益(△損失)累計額から 損益に振替えられた金融派生商品損益	
		四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	△15,570	売上高	△6,307
		売上原価	△89
		その他の収益(△費用)－その他(純額)	△7,593
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	521	売上原価	1
計	△15,049		△13,988

ヘッジ指定されていない金融派生商品

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日至2022年9月30日)	
	損益認識された金融派生商品損益	
	四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	その他の収益(△費用)－その他(純額)	4,541
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	売上原価	△15
	その他の収益(△費用)－その他(純額)	2,747
計		7,273

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日至2023年9月30日)	
	損益認識された金融派生商品損益	
	四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	その他の収益(△費用)－その他(純額)	2,882
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	売上原価	△251
	その他の収益(△費用)－その他(純額)	1,306
計		3,937

前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）における、金融派生商品の四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書への影響は次のとおりです。

キャッシュ・フローヘッジにおける金融派生商品

	前第2四半期連結会計期間 (自2022年7月1日至2022年9月30日)		
	その他の包括利益(△損失) に認識された金融派生商品 損益の金額 (百万円)	その他の包括利益(△損失)累計額から 損益に振替えられた金融派生商品損益	
		四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	△7,600	売上高	△4,926
		売上原価	△154
		その他の収益(△費用)－その他(純額)	△3,105
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	881	売上原価	7
計	△6,719		△8,178

	当第2四半期連結会計期間 (自2023年7月1日至2023年9月30日)		
	その他の包括利益(△損失) に認識された金融派生商品 損益の金額 (百万円)	その他の包括利益(△損失)累計額から 損益に振替えられた金融派生商品損益	
		四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	△4,499	売上高	△4,103
		売上原価	88
		その他の収益(△費用)－その他(純額)	△1,427
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	△75	売上原価	1
計	△4,574		△5,441

ヘッジ指定されていない金融派生商品

	前第2四半期連結会計期間 (自2022年7月1日至2022年9月30日)	
	損益認識された金融派生商品損益	
	四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	その他の収益(△費用)－その他(純額)	248
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	売上原価	22
	その他の収益(△費用)－その他(純額)	1,851
計		2,121

	当第2四半期連結会計期間 (自2023年7月1日至2023年9月30日)	
	損益認識された金融派生商品損益	
	四半期連結損益計算書計上科目	金額(百万円)
外国為替予約契約	その他の収益(△費用)－その他(純額)	3,619
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	売上原価	△832
	その他の収益(△費用)－その他(純額)	937
計		3,724

16. 金融商品の公正価値情報

① 現金及び現金同等物、短期債務

これらの勘定は短期間で決済されるため、その連結貸借対照表計上額及び四半期連結貸借対照表計上額は公正価値に近似しています。

② 長期売上債権－リース債権を除く

長期売上債権の公正価値は、将来のキャッシュ・フローから、類似の満期日の売上債権に対して適用される期末時点での利率で割り引いて算定しています。

③ 長期債務－1年以内期限到来分を含む

長期債務の公正価値は、取引所の相場による価格に基づいて算定するか、あるいは、借入ごとに将来のキャッシュ・フローから、類似の満期日の借入金に対して適用される期末時点での市場の借入金利で割り引いて算定した現在価値に基づいて算定しています。

④ 金融派生商品（注記15、17参照）

金融派生商品の公正価値については、注記17にて記載しているため、以下の表には含めていません。

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における、金融商品の連結貸借対照表計上額及び四半期連結貸借対照表計上額、公正価値並びに公正価値レベルは次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)		当第2四半期 連結会計期間末 (2023年9月30日)		公正価値 レベル
	連結貸借対照表 計上額	公正価値	四半期 連結貸借対照表 計上額	公正価値	
	百万円	百万円	百万円	百万円	
現金及び現金同等物	289,975	289,975	317,287	317,287	レベル1
長期売上債権 －リース債権を除く	430,178	411,766	483,201	468,196	レベル2
短期債務	310,738	310,738	412,698	412,698	レベル2
長期債務 －1年以内期限到来分を含む	743,024	719,514	739,848	706,820	レベル2

(注) 1. 公正価値の見積りについては特定の一時点で、利用可能な市場情報及び当該金融商品に関する情報に基づいて算定しています。これらの見積りは不確実な点及び当社グループの判断を含んでいます。そのため、想定している前提が変わることにより、この公正価値の見積りに影響を及ぼす可能性があります。

2. 公正価値レベル区分については、注記17にて記載しています。

## 17. 公正価値による測定

米国財務会計基準審議会会計基準編纂書（以下、「会計基準編纂書」）820「公正価値測定」は、公正価値を「市場参加者が測定日に行う通常の取引において、資産を売却して受け取る価格又は負債を譲渡するために支払う価格」と定義し、公正価値をその測定のために使用するインプットの信頼性に応じて3つのレベルに区分することを規定しています。各レベルの内容は次のとおりです。

- ・レベル1：活発な市場における同一資産又は同一負債の市場価格
- ・レベル2：レベル1以外の、直接的又は間接的に観察可能なインプット
- ・レベル3：観察不能なインプット

経常的に公正価値で測定される資産及び負債

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）における、経常的に公正価値で測定される資産及び負債の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度末 (2023年3月31日)			(百万円)
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>資産</b>				
金融派生商品				
外国為替予約契約	—	4,892	—	4,892
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	—	5,448	—	5,448
合計	—	10,340	—	10,340
<b>負債</b>				
金融派生商品				
外国為替予約契約	—	8,119	—	8,119
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	—	1,978	—	1,978
合計	—	10,097	—	10,097
	当第2四半期連結会計期間末 (2023年9月30日)			(百万円)
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
<b>資産</b>				
金融派生商品				
外国為替予約契約	—	4,821	—	4,821
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	—	6,335	—	6,335
合計	—	11,156	—	11,156
<b>負債</b>				
金融派生商品				
外国為替予約契約	—	10,575	—	10,575
金利スワップ及びクロス カレンシースワップ契約	—	2,710	—	2,710
合計	—	13,285	—	13,285

金融派生商品（注記15、16参照）

外国為替予約及び金利スワップ契約等が含まれています。外国為替予約契約の公正価値は、契約レートと測定日の予約レートとの差額から生じる将来キャッシュ・フローの現在価値を使用した価格モデルに基づき算定し、レベル2に分類しています。金利スワップ契約の公正価値は、スワップカーブと契約期間を使用した価格モデルに基づき算定し、レベル2に分類しています。

非経常的に公正価値で測定される資産及び負債

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）及び当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）において、非経常的に公正価値で測定された資産及び負債に重要性はありません。

#### 18. 貸出コミットメント

前連結会計年度末（2023年3月31日）及び当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）において、当社及び一部の連結子会社は代替流動性を確保するため、金融機関との間でそれぞれ304,630百万円及び340,571百万円のコミットメントライン契約を締結しています。前連結会計年度末及び当第2四半期連結会計期間末における未使用枠はそれぞれ284,898百万円及び319,376百万円となっており、すべて即時利用可能です。

#### 19. 配当に関する事項

前第2四半期連結累計期間（自2022年4月1日至2022年9月30日）

##### ① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年6月21日 定時株主総会	普通株式	52,962	利益剰余金	56	2022年3月31日	2022年6月22日

(注) 百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

##### ② 基準日が前第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が前第2四半期連結会計期間末（2022年9月30日）後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年10月31日 取締役会	普通株式	60,542	利益剰余金	64	2022年9月30日	2022年12月2日

(注) 百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

当第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）

##### ① 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年6月21日 定時株主総会	普通株式	70,950	利益剰余金	75	2023年3月31日	2023年6月22日

(注) 百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

##### ② 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末（2023年9月30日）後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2023年10月27日 取締役会	普通株式	68,139	利益剰余金	72	2023年9月30日	2023年12月1日

(注) 百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

## 20. セグメント情報

当社グループは、事業セグメントを1) 建設機械・車両、2) リテールファイナンス、3) 産業機械他の3つに区分しています。それらは独立した財務情報が入手可能であり、マネジメントによる経営資源の配分や業績の評価に使用されています。

セグメント情報作成上の会計方針は、当社の四半期連結財務諸表を作成するために採用している会計方針と一致しています。

セグメント利益は、売上高から売上原価と販売費及び一般管理費を差し引いたものであり、マネジメントによる経営資源の配分や業績の評価に使用されています。各セグメント利益には、上級役員、経営企画、コーポレートファイナンス、人事、内部監査、IR、法務、広報に係る費用等の特定の全社共通費用や金融費用、並びに長期性資産や営業権の減損等、各セグメントに関連する特別な費用は含まれていません。

### 【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）

(百万円)

	建設機械 ・車両	リテール ファイナンス	産業機械他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,502,489	33,451	82,795	1,618,735	—	1,618,735
(2) セグメント間の内部売上高	3,720	8,044	916	12,680	△12,680	—
計	1,506,209	41,495	83,711	1,631,415	△12,680	1,618,735
セグメント利益	187,521	14,852	10,980	213,353	△602	212,751

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）

(百万円)

	建設機械 ・車両	リテール ファイナンス	産業機械他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,702,798	36,870	83,326	1,822,994	—	1,822,994
(2) セグメント間の内部売上高	4,786	10,640	1,708	17,134	△17,134	—
計	1,707,584	47,510	85,034	1,840,128	△17,134	1,822,994
セグメント利益	280,789	12,989	4,414	298,192	△249	297,943



前第2四半期連結会計期間（自 2022年7月1日 至 2022年9月30日）

(百万円)

	建設機械 ・車両	リテール ファイナンス	産業機械他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	788,861	17,200	48,866	854,927	—	854,927
(2) セグメント間の内部売上高	2,024	4,356	305	6,685	△6,685	—
計	790,885	21,556	49,171	861,612	△6,685	854,927
セグメント利益	104,195	7,139	7,453	118,787	△404	118,383

当第2四半期連結会計期間（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）

(百万円)

	建設機械 ・車両	リテール ファイナンス	産業機械他	計	消去又は 全社	連結
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	860,559	19,167	43,717	923,443	—	923,443
(2) セグメント間の内部売上高	164	5,450	865	6,479	△6,479	—
計	860,723	24,617	44,582	929,922	△6,479	923,443
セグメント利益	142,359	6,641	2,490	151,490	△355	151,135

セグメント別利益の合計額と税引前四半期純利益との調整

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
セグメント別利益の合計額	213,353	298,192
消去又は全社	△602	△249
合計	212,751	297,943
その他の営業収益（△費用）	△1,117	△967
営業利益	211,634	296,976
受取利息及び配当金	5,012	9,187
支払利息	△10,892	△25,003
その他（純額）	22,005	6,860
税引前四半期純利益	227,759	288,020

	前第2四半期連結会計期間 (自 2022年7月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年9月30日)
	百万円	百万円
セグメント別利益の合計額	118,787	151,490
消去又は全社	△404	△355
合計	118,383	151,135
その他の営業収益（△費用）	△311	△1,180
営業利益	118,072	149,955
受取利息及び配当金	2,776	4,700
支払利息	△6,220	△13,043
その他（純額）	656	△1,760
税引前四半期純利益	115,284	139,852

(注) 1. 事業の種類別セグメントに含まれる主要製品・事業内容は、次のとおりです。

a. 建設機械・車両事業セグメント

掘削機械、積込機械、整地・路盤用機械、運搬機械、林業機械、地下建設機械、地下鉱山機械、環境リサイクル機械、産業車両、その他機械、エンジン、機器、鋳造品、物流関連、ソリューションビジネス

b. リテールファイナンス事業セグメント

販売金融

c. 産業機械他事業セグメント

鍛圧機械、板金機械、工作機械、防衛関連、温度制御機器、光学機械

2. セグメント間の取引は、独立企業間価格で行われています。

【地域別情報】

前第2四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年9月30日）の地域別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

(百万円)

	日本	米州	欧州・CIS	中国	アジア※・オセアニア	中近東・アフリカ	連結
建設機械・車両	140,591	638,044	205,466	39,216	359,630	119,542	1,502,489
リテールファイナンス	1,617	23,057	3,646	1,140	3,709	282	33,451
産業機械他	39,470	11,883	6,318	7,603	17,335	186	82,795
計	181,678	672,984	215,430	47,959	380,674	120,010	1,618,735

※ 日本及び中国を除きます。

当第2四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）の地域別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

(百万円)

	日本	米州	欧州・CIS	中国	アジア※・オセアニア	中近東・アフリカ	連結
建設機械・車両	153,075	776,594	195,315	32,273	400,457	145,084	1,702,798
リテールファイナンス	568	26,884	3,934	616	4,358	510	36,870
産業機械他	43,041	10,814	8,383	6,323	14,586	179	83,326
計	196,684	814,292	207,632	39,212	419,401	145,773	1,822,994

※ 日本及び中国を除きます。

前第2四半期連結会計期間（自2022年7月1日至2022年9月30日）の地域別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

（百万円）

	日本	米州	欧州・CIS	中国	アジア※・オセアニア	中近東・アフリカ	連結
建設機械・車両	73,916	333,937	101,236	20,031	199,243	60,498	788,861
リテール ファイナンス	1,091	11,676	1,827	543	1,917	146	17,200
産業機械他	24,020	8,342	3,133	4,264	9,007	100	48,866
計	99,027	353,955	106,196	24,838	210,167	60,744	854,927

※ 日本及び中国を除きます。

当第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）の地域別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

（百万円）

	日本	米州	欧州・CIS	中国	アジア※・オセアニア	中近東・アフリカ	連結
建設機械・車両	80,039	397,226	89,194	16,862	198,836	78,402	860,559
リテール ファイナンス	279	14,055	1,973	258	2,282	320	19,167
産業機械他	22,777	5,782	4,228	3,460	7,333	137	43,717
計	103,095	417,063	95,395	20,580	208,451	78,859	923,443

※ 日本及び中国を除きます。

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間の所在地別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

（百万円）

	日本	米州	欧州・CIS	中国	その他の地域	連結
前第2四半期連結累計期間	305,326	659,121	238,269	43,776	372,243	1,618,735
当第2四半期連結累計期間	328,204	801,339	230,794	36,642	426,015	1,822,994

前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間の所在地別外部顧客に対する売上高は次のとおりです。

（百万円）

	日本	米州	欧州・CIS	中国	その他の地域	連結
前第2四半期連結会計期間	168,202	344,069	117,195	22,501	202,960	854,927
当第2四半期連結会計期間	172,014	409,839	109,463	20,035	212,092	923,443

前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間並びに前第2四半期連結会計期間及び当第2四半期連結会計期間において、開示すべき単一の外部顧客に対する売上高はありません。

## 21. 重要な後発事象

当社グループは、2023年11月10日の四半期報告書提出時点までの後発事象を評価しましたが、該当事項はありません。

## 22. 四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法について

当社の四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法は、米国会計基準に準拠しています。

わが国の「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」に準拠して作成する場合との主な相違点は次のとおりです。

### ① 連結対象範囲について

わが国の四半期連結財務諸表は、実質支配力・影響力基準により連結対象範囲の判断を行っていますが、米国会計基準に基づく四半期連結財務諸表は、議決権にて判定を行う持株基準及び変動持分事業体の連結基準により連結対象範囲の判断を行っています。

### ② 会計処理基準について

#### a. 株式交付費

わが国では株式交付費は損益取引として発生時に費用処理が認められていますが、当社の四半期連結財務諸表では米国会計基準に従い、資本取引に伴う費用として資本剰余金の控除項目として処理しています。

#### b. 退職給付会計

わが国では年金数理計算上の純損益の償却方法として、平均残存勤務期間内の一定の年数で償却することを求めています。当社の四半期連結財務諸表では米国会計基準に従い、回廊アプローチを採用しています。

#### c. 企業結合及び営業権

わが国では営業権を一定期間で償却することが求められていますが、米国会計基準では、営業権の償却を行わず、代わりに少なくとも各年度に1回の減損テストの実施を要求しています。また、耐用年数が明らかではない無形固定資産についても償却を行わず、減損テストを行うことを要求しています。

### ③ 表示の方法等について

#### a. 利益準備金の表示

わが国では利益準備金はその他の剰余金とあわせて利益剰余金として記載されますが、当社の四半期連結財務諸表では米国会計基準に従い、別建表示しています。

#### b. 特別損益について

わが国では固定資産売却損益等は特別損益として表示されますが、米国会計基準のもとでは特別損益項目の概念がないため、当社の四半期連結財務諸表では特別損益の表示はありません。

## 2 【その他】

2023年10月27日開催の取締役会において、当期の中間配当に関し、次のとおり決議しました。

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| ① 中間配当による配当金の総額     | 68,139百万円  |
| ② 1株当たりの金額          | 72円        |
| ③ 支払請求の効力発生日及び支払開始日 | 2023年12月1日 |

(注) 1. 2023年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主又は登録株式質権者に対し、支払いを行います。

2. 配当金の総額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しています。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月10日

株式会社小松製作所

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 服 部 将 一

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 錦 織 倫 生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 外 山 大 祐

## 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社小松製作所の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（自2023年7月1日至2023年9月30日）及び第2四半期連結累計期間（自2023年4月1日至2023年9月30日）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結純資産計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び四半期連結財務諸表に関する注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」附則第4条の規定により米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社小松製作所及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

## 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

## 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、米国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。  
監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しています。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。



**【表紙】**

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年11月10日
【会社名】	株式会社小松製作所
【英訳名】	KOMATSU LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小川 啓之
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役 兼 専務執行役員 堀越 健
【本店の所在の場所】	東京都港区赤坂二丁目3番6号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 小川 啓之及び最高財務責任者 取締役 兼 専務執行役員 堀越 健は、当社の第155期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。